

尺八を愛好する男女



独特な楽譜を広げて稽古に励んでいます

みんなのた場

宮城竹友会石巻

尺八の魅力探求
古曲から歌謡曲まで

サークル仲間 164

石巻中央公民館を拠点に活動する「宮城竹友会石巻」は現在、60～70代を中心に15人ほどの会員がおり、週1回のペースで独特な音色が魅力の尺八を練習しています。

同会は、市民向けの体験講座をきっかけに受講者が平成5年に立ち上げました。当初はわずか2人でしたが、徐々に会員数が増えて現在に至ります。長い歴史を持つ尺八は「都山流」や「明暗流」など多くの流派があり、竹友会

は「琴古流」を学んでいます。琴古流は長さ一尺八寸（約55センチ）の尺八を使い、音域は3オクターブほど。演奏をする最初の難関は「安定した音を出す」ことだそうです。ここで諦めてしまう体験者も多いのですが、安定して吹けるようになると、自分で音を作っていく楽しさに魅了されます。

師範の榛澤一翠さんは「琴古流は江戸時代からあり、各流派が確立されたのは明治初期ごろ。楽譜は独特で、テンポなどは感覚で覚えていくのも西洋音楽にはない魅力」と言います。竹友会の稽古は尺八本来の音色と技術を楽しむ「古曲」を主に励んでいます。が、公民館の文化祭では歌謡曲なども取り入れ、幅広い楽曲を演奏しています。

49歳で始めた高須賀恭さんは「仕事の後に楽しめる趣味を探していて、尺八に出会いました」と喜んでいます。高橋広志さんは「もともとは内気な性格でしたが、人前で吹けるようになり楽しさを知りました。もっと練習して技術を高めたい」と意欲にあふれています。

練習日は毎週木曜の午後5時から9時までで、随時、見学や体験は随時受け入れています。

図 石巻中央公民館
☎ 22-2970

きらり★まきっこ 20

注目される選手になりたい

今野 理彩さん（飯野川中3年）

兄の影響で小学2年生で軟式野球を始めました。現在は男女混合の部活動と、県内の女子中学生でつくる「宮城デイズ」で外野手をしています。

夏はデイズで東京と京都それぞれであった全国大会に出場し、どちらもベスト8に入りました。女子だけのデイズは、雰囲気良くて励まし合える環境なのでつらい練習も乗り越えられます。

ボールがバットの芯に当たる感触や、難しい打球が捕れるとうれしいし楽しいですが、ずば抜けた長所を作っていくことが今後の課題です。バッティングに磨きをかけ、チャンスに強い選手を目指します。

高校進学後も野球を続け、プレーだけでなく私生活や精神面でも周りから注目される選手になりたいです。



市報いしのまき 第327号 令和7年11月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ごつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)			
令和7年9月末現在	人 口	130,585人	(▲2,274)
	世帯数	62,500世帯	(▲52)